令和７年度「人権教育研究推進事業」研究指定校事業

都道府県・指定都市名（　東京都　）

１．基本情報

研究指定校名	台東区立千束小学校

○これまでの研究指定等の状況

－

○学級数

８学級

○児童生徒数

１８７名（令和８年２月１２日現在）

○URL

https://www.taito.ed.jp/1310227

２．調査研究のテーマ、概要、指定理由

調査研究のテーマ	「自分ごと」として学び、すすんで表現する児童

○調査研究のテーマを設定した目的

本校では長年「自分ごと」をテーマに調査研究を行っている。それにより、人権の意義・内容や重要性について理解し、自分の大切さとともにほかの人の大切さを認めることができるようになり、人権が尊重される社会づくりに向けた行動につながると考える。

令和５・６年度は、東京都教育委員会人権尊重教育推進校として、「自分ごと」として学びに取り組む児童の育成～一人一人を大切にした授業作りを通して～をテーマに研究を行った。主に低・中学年では普遍的な視点からの取組、高学年では個別的な視点からの取組を行い、人権教育の充実を図ることができた。学習の手だてとして、思考の可視化ツール等を活用し、自分の意見を伝えたり、相手の意見を受け入れたりする実践を積み重ねることで、人権課題等について「自分ごと」として考えられるようになってきた姿が見られている。令和７年度は、すすんで表現できる児童の育

成をテーマに加えた。相手の意見を受け入れるだけでなく、自分の思いや考えをすすんで表現することで、より深く人権課題等について「自分ごと」として捉えられると考え、授業実践等を推進する。

〇調査研究の概要

低・中学年では、各教科等を通して普遍的な視点からの取組を行う。高学年では総合的な学習の時間等を通して、個別的な視点からの取組を行う。学習形態を工夫したり、ゲストティーチャーによる講演や体験学習を取り入れたりすることで、調査研究テーマに則った児童の育成を図る。

〇指定理由

本校は昭和４７年以来、東京都教育委員会人権尊重教育推進校等として、人権教育を推進してきた。人権教育は本校の学校経営計画や、校内研究の要となっている。人権尊重教育推進校として、人権教育を広く普及、啓発していくことが使命であると捉えている。

本校ではこれまでに、人権課題を取り扱った単元開発を行ってきた。児童の発達の段階に合わせて、普遍的な視点からの取組、個別的な視点につながる普遍的な視点からの取組、個別的な視点からの取組を定め、地域性についても考慮して単元の計画を立てた。

人権教育は各教科等で「人権教育の視点」を意識して授業を行えば、知識的側面、価値的・態度的側面、技能的側面の資質・能力を育むことができる。そこで、各教科等の目標や単元の特性に応じた「人権教育の視点」を設定し、人権教育を実践してきた。それによって、一層教科等の目標を意識した授業を行うことができるようになり、教師の授業力向上にもつながった。以上のことから、人権教育研究指定校事業を推進した。

３．取り組んだ人権課題

※　該当するものに〇印。複数選択可。うち、最も主要な人権課題１つに◎印。
※　下線部は、令和７年度事業における重点課題。

① 子供	〇
② 女性	
③ 高齢者	〇
④ 障害者	〇
⑤ 同和問題	◎
⑥ アイヌの人々	
⑦ 外国人	
⑧−１ HIV 感染者等	〇
⑧−２ ハンセン病患者等	
⑨ 刑を終えて出所した人	
⑩ 犯罪被害者等	
⑪ インターネットによる人権侵害	〇
⑫ 北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬ 性的指向、性自認	
⑭ その他（　　）	

４．調査研究の内容等

〇調査研究の内容

研究主題

「自分ごと」として学び、すすんで表現する児童

人権教育の視点を明確にした各教科等の授業を行い、日々の授業で人権教育を行っていく。そして、各教科等における「人権教育の視点」の設定方法や実践事例をまとめ、他校に普及・啓発をしていく。

研究主題に迫るために、次の３つの内容に取り組んでいく。

① 人権教育の視点を明確にした、普遍的な視点からの取組の充実
② 正しいことを判断し、行動につなげていくための個別的な視点からの取組の充実
③ 人権感覚を養い、実践力を養うための日常活動の充実

○実施方法

人権教育年間指導計画や人権教育カリキュラムに則り、人権課題や人権課題に関する取組について系統的に指導し、６年間で児童が様々な人権課題を学ぶ機会を設定する。当初の計画通り、以下の取組を行った。

① 普遍的な視点からの取組

・第１学年（特別の教科　道徳）

学級の友達同士で互いのよさを考えることを通して、自他の価値を尊重しようとする意欲や態度を育む。

・第２学年（生活科）

おもちゃを作って、試し、さらに工夫を加える活動を友達と関わり合いながら行う活動を通して、より楽しめる遊びを創り出す力を育てながら生活を豊かにしようとする態度を養う。

・第３学年（社会科）

靴工場調べ等を通して、皮革産業の仕事や、その仕事に携わる人々の思いを理解し、地域への愛着を育む。

・第４学年（総合的な学習の時間）

「だれもが住みよいまちにするにはどうしたらよいか」という問いについての問題解決的な学習に児童一人一人が主体的に取り組み、協働的に活動することを通して、積極的に社会に参画しようとする態度を育てる。

② 個別的な視点からの取組

・第５学年（総合的な学習の時間）　人権課題「障害者」

障害に対する正しい理解を得るための探究的な活動を通して、障害のある人に対する偏見や差別の実態について理解させ、障害者と共に生きようとする態度を育てる。

・第６学年（総合的な学習の時間）　人権課題「同和問題（部落差別）」

東京都の皮革産業の技術の高さや食肉市場に関連した仕事について理解させる活動を通して、偏見や差別意識の解消に向けて主体的に行動しようとする態度を養う。

③ 日常活動の充実

努力を認める取組、人権の花集会、人権標語、スピーチ大会、縦割り班活動　等

○検証・評価・改善・普及

今年度の研究の視点に基づいて児童アンケートを年２回実施した。

（第２～第４学年）

	質問内容	５月		１２月	
		肯定的回答	否定的回答	肯定的回答	否定的回答
①	学習の時間に、自分の考えや思いを、友達に伝えることをしていますか。	７０％	３０％	７５％	１５％
②	学習の時間に、友達の考えや思いを、聞いたり見たりすることをしていますか。	７８％	２２％	８７％	１３％
③	学習の時間に、自分の思いや考えを伝えたことで、学習したことがより分かるようになりますか。	８３％	１７％	８７％	１３％

④	学習の時間に、友達の考えや思いを聞いたり見たりしたことで、学習したことがより分かるようになりますか。	８２％	１８％	８８％	１２％
⑤	学んでいることを「自分に関係すること」「自分に身近なこと」として考えていますか。	８３％	１７％	９０％	１０％

高学年で個別的な視点からの取組の授業を行うため、質問項目を一つ増やして実施した。

（第５～第６学年）

	質問内容	５月		１２月	
		肯定的回答	否定的回答	肯定的回答	否定的回答
①	学習の時間に、自分の考えや思いを、友達に伝えることをしていますか。	８０％	２０％	８６％	１４％
②	学習の時間に、友達の考えや思いを、聞いたり見たりすることをしていますか。	９３％	７％	９５％	５％
③	学習の時間に、自分の思いや考えを伝えたことで、学習したことがより分かるようになりますか。	８４％	１６％	８７％	１３％
④	学習の時間に、友達の考えや思いを聞いたり見たりしたことで、学習したことがより分かるようになりますか。	９３％	７％	９４％	６％
⑤	学んでいることを「自分に関係すること」「自分に身近なこと」として考えていますか。	９０％	１０％	９１％	９％
⑥	人権を大切にするために、必要なことは何だと思いますか。（自由記述）	・人の意見を否定しない。 ・差別をしない。 ・個性を受け入れる。 ・いじめをなくす。（抜粋）		・一人一人を大切にする。 ・自分と少し違う人でも差別をしない。 ・偏見や差別に対する正しい知識を身に付ける。（抜粋）	

研究についての成果及び改善点

○すすんで表現する児童を育成するための手だてを検討し、児童が主体となる授業展開の工夫や、思考の可視化ツール等の活用を取り入れたことで、自ら学習を進めたり、学習の方法を選択したりし、自分の思いや考えを意欲的に表現しようとする児童の姿が見られた。

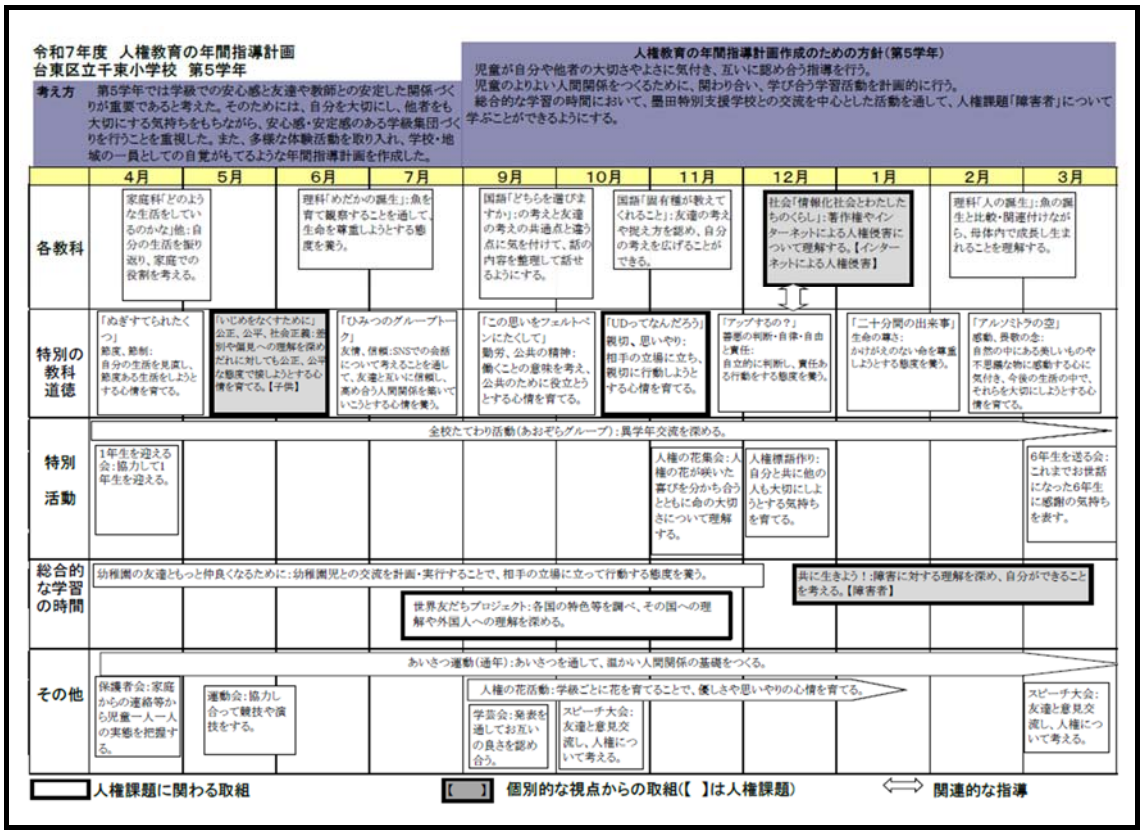
○体験的な学習やゲストティーチャーの活用を積極的に行うことで、人権課題を「自分ごと」として捉える児童が増えた。

○個別的な視点からの取組を人権課題「障害者」「同和問題（部落差別）」と設定し、６年間を通して系統的に学べるよう継続してきたことで、人権課題に対する理解を深め、偏見や差別をなくそうとする態度を育むことができた。

●全ての児童が「すすんで表現する」ことを目指し、授業展開の工夫等の手だてを引き続き検討していく。

●より児童に身近で、「自分ごと」として捉えることができる人権課題の設定について検討していく。

５．人権教育にかかる年間指導計画



６．推進体制（都道府県・指定都市教育委員会等を含む）

